

－ 医薬品の適正使用に欠かせない情報です。必ずお読みください。－

電子化された添付文書改訂のお知らせ

2025 年 6 月－8 月

劇薬、処方箋医薬品^注

ヤヌスキナーゼ（JAK）阻害剤
ウパダシチニブ水和物錠

リンヴォック[®]錠 45mg

リンヴォック[®]錠 30mg

リンヴォック[®]錠 15mg

リンヴォック[®]錠 7.5mg

RINVOQ[®] Tablets

abbvie

製造販売元 **アッヴィ合同会社**

この度、承認事項の一部変更として、「巨細胞性動脈炎」の効能又は効果、用法及び用量が新たに承認され、関連する事項について添付文書（「効能又は効果」、「用法及び用量」、「使用上の注意」等）を改訂いたしました。

今後のご使用に際しましては、以下の内容をご参照くださいますよう、お願い申し上げます。

改訂内容ダイジェスト（詳細はお知らせ本文をご参照ください）

【改訂の概要】

主な改訂項目	主な改訂内容	備考
警告 効能又は効果 効能又は効果に関連する注意 用法及び用量 重要な基本的注意 特定の背景を有する患者に関する注意 副作用 その他の注意	「巨細胞性動脈炎」の効能又は効果、用法及び用量が新たに承認されたことに伴い、関連する項目を改訂いたしました。	承認事項の一部変更

- ・ 製品に関するお問合せ先：アッヴィ合同会社 くすり相談室
フリーダイヤル 0120-587-874 9～17 時 30 分
（土、日、祝日、その他の当社休業日を除く）
- ・ 製品情報は、アッヴィホームページ（<https://www.abbvie.co.jp>）

にてご覧いただけます。

注）注意－医師等の処方箋により使用すること

【改訂内容】（該当部のみ抜粋）

改訂後（下線部____：追記又は変更）	改訂前（下線部____：変更、取消線部——：削除）
1. 警告 〈効能共通〉 1.1～1.5（変更なし） 〈X線基準を満たさない体軸性脊椎関節炎、強直性脊椎炎、<u>巨細胞性動脈炎</u>〉 1.6 本剤の治療を開始する前に、適応疾患の既存治療の適用を十分に勘案すること。[5.3、5.4、<u>5.5</u> 参照] 1.7～1.8（変更なし）	1. 警告 〈効能共通〉 1.1～1.5（略） 〈X線基準を満たさない体軸性脊椎関節炎、強直性脊椎炎〉 1.6 本剤の治療を開始する前に、適応疾患の既存治療の適用を十分に勘案すること。[5.3、5.4 参照] 1.7～1.8（略）
4. 効能又は効果 既存治療で効果不十分な下記疾患 ○関節リウマチ（関節の構造的損傷の防止を含む） ○乾癬性関節炎 ○X線基準を満たさない体軸性脊椎関節炎 ○強直性脊椎炎 ○<u>巨細胞性動脈炎</u> ○アトピー性皮膚炎^注 ○中等症から重症の潰瘍性大腸炎の寛解導入及び維持療法（既存治療で効果不十分な場合に限る） ○中等症から重症の活動期クローン病の寛解導入及び維持療法（既存治療で効果不十分な場合に限る） 注）最適使用推進ガイドライン対象	4. 効能又は効果 既存治療で効果不十分な下記疾患 ○関節リウマチ（関節の構造的損傷の防止を含む） ○乾癬性関節炎 ○X線基準を満たさない体軸性脊椎関節炎 ○強直性脊椎炎 ○アトピー性皮膚炎^注 ○中等症から重症の潰瘍性大腸炎の寛解導入及び維持療法（既存治療で効果不十分な場合に限る） ○中等症から重症の活動期クローン病の寛解導入及び維持療法（既存治療で効果不十分な場合に限る） 注）最適使用推進ガイドライン対象
5. 効能又は効果に関連する注意 5.1～5.4（変更なし） 〈<u>巨細胞性動脈炎</u>〉 5.5 原則として、副腎皮質ステロイド薬による適切な治療を行っても疾患活動性を有する場合、副腎皮質ステロイド薬による治療の継続が困難な場合に投与すること。[1.6 参照] 5.6～5.10（変更なし 以下番号繰り下げ）	5. 効能又は効果に関連する注意 5.1～5.4（略） 5.5～5.9（略）
6. 用法及び用量 〈関節リウマチ〉 （変更なし） 〈乾癬性関節炎、X線基準を満たさない体軸性脊椎関節炎、強直性脊椎炎、<u>巨細胞性動脈炎</u>〉 通常、成人にはウパダシニブとして15mgを1日1回経口投与する。 〈アトピー性皮膚炎〉 （変更なし） 〈潰瘍性大腸炎〉 （変更なし） 〈クローン病〉 （変更なし）	6. 用法及び用量 〈関節リウマチ〉 （略） 〈乾癬性関節炎、X線基準を満たさない体軸性脊椎関節炎、強直性脊椎炎〉 通常、成人にはウパダシニブとして15mgを1日1回経口投与する。 〈アトピー性皮膚炎〉 （略） 〈潰瘍性大腸炎〉 （略） 〈クローン病〉 （略）
8. 重要な基本的注意 8.1～8.10（変更なし） 〈<u>巨細胞性動脈炎</u>〉 8.11 臨床試験において、本剤と高用量の副腎皮質ステロイド薬を長期に併用投与した場合の安全性は確認されていない。本剤の投与後は、患者の状態に応じて副腎皮質ステロイド薬の減量を考慮すること。 8.12～8.13（変更なし 以下番号繰り下げ）	8. 重要な基本的注意 8.1～8.10（略） 8.11～8.12（略）
9. 特定の背景を有する患者に関する注意 9.1 合併症・既往歴等のある患者 9.1.1～9.1.4（変更なし）	9. 特定の背景を有する患者に関する注意 9.1 合併症・既往歴等のある患者 9.1.1～9.1.4（略）

改訂後（下線部_____：追記又は変更）	改訂前（下線部_____：変更、取消線部_____：削除）																																
9.1.5 動脈血栓塞栓症のリスクを有する患者 〔11.1.7 参照〕 9.1.6～9.1.12（変更なし 以下番号繰り下げ） 9.2～9.6（変更なし） 9.7 小児等 〈関節リウマチ、乾癬性関節炎、X線基準を満たさない体軸性脊椎関節炎、強直性脊椎炎、<u>巨細胞性動脈炎</u>、潰瘍性大腸炎、クローン病〉 9.7.1 小児等を対象とした臨床試験は実施していない。 〈アトピー性皮膚炎〉 （変更なし） 9.8 高齢者 （変更なし）	9.1.5～9.1.11（略） 9.2～9.6（略） 9.7 小児等 〈関節リウマチ、乾癬性関節炎、X線基準を満たさない体軸性脊椎関節炎、強直性脊椎炎、潰瘍性大腸炎、クローン病〉 9.7.1 小児等を対象とした臨床試験は実施していない。 〈アトピー性皮膚炎〉 （略） 9.8 高齢者 （略）																																
11. 副作用 （変更なし） 11.1 重大な副作用 11.1.1 感染症 （変更なし） 11.1.2 消化管穿孔（0.1%未満） （変更なし） 11.1.3 好中球減少（<u>2.8%</u>）、リンパ球減少（1.7%）、ヘモグロビン減少（0.5%） 好中球数：本剤投与開始後、1000/mm³ 未満になった場合には、1000/mm³ 以上となるまで本剤の投与を中断すること。 リンパ球数：本剤投与開始後、500/mm³ 未満になった場合には、500/mm³ 以上となるまで本剤の投与を中断すること。 ヘモグロビン値：本剤投与開始後、8g/dL 未満になった場合には、8g/dL 以上となるまで本剤の投与を中断すること。 11.1.4 肝機能障害 ALT 上昇（<u>2.8%</u>）、AST 上昇（<u>2.2%</u>）等の肝機能障害があらわれるおそれがある。[8.10 参照] 11.1.5 間質性肺炎（頻度不明） （変更なし） 11.1.6 静脈血栓塞栓症 肺塞栓症（<u>0.2%</u>）及び深部静脈血栓症（0.1%）があらわれることがある。[9.1.4 参照] 11.1.7 <u>動脈血栓塞栓症（0.1%未満）</u> <u>巨細胞性動脈炎患者を対象とした臨床試験において、動脈血栓塞栓症が本剤 15mg 投与例においてのみ認められた。[9.1.5 参照]</u> 11.1.8 重篤な過敏症 （変更なし） 11.2 その他の副作用 <table><tr><td></td><td>10%以上</td><td>1%～10%未満</td><td>1%未満</td></tr><tr><td>消化器</td><td>—</td><td>悪心、腹痛（上腹部痛を含む）</td><td>—</td></tr><tr><td>呼吸器</td><td>—</td><td>咳嗽</td><td>—</td></tr><tr><td>感染症</td><td>上気道感染（急性副鼻腔炎、喉頭炎、ウイルス性喉頭炎、上咽頭炎、口腔咽頭炎、咽頭膿瘍、咽頭炎、レンサ球菌性咽頭炎、咽頭扁桃炎、気道感染、ウイルス性気道感染、鼻炎、鼻咽喉頭炎、副鼻腔炎、扁桃炎、細菌性扁桃炎、ウイルス性咽頭炎、ウイルス性上気道感染を含む）</td><td>気管支炎（ウイルス性気管支炎、細菌性気管支炎を含む）、単純ヘルペス（陰部単純ヘルペス、陰部単純ヘルペス、ヘルペス性皮膚炎、ヘルペス眼感性気道感染、鼻炎、鼻ヘルペス、眼鼻咽喉頭炎、副鼻腔部単純ヘルペス、ヘルペスウイルス感染、口腔ヘルペスを含む）、インフルエンザ、毛包炎</td><td>口腔カンジダ症</td></tr></table>		10%以上	1%～10%未満	1%未満	消化器	—	悪心、腹痛（上腹部痛を含む）	—	呼吸器	—	咳嗽	—	感染症	上気道感染（急性副鼻腔炎、喉頭炎、ウイルス性喉頭炎、上咽頭炎、口腔咽頭炎、咽頭膿瘍、咽頭炎、レンサ球菌性咽頭炎、咽頭扁桃炎、気道感染、ウイルス性気道感染、鼻炎、鼻咽喉頭炎、副鼻腔炎、扁桃炎、細菌性扁桃炎、ウイルス性咽頭炎、ウイルス性上気道感染を含む）	気管支炎（ウイルス性気管支炎、細菌性気管支炎を含む）、単純ヘルペス（陰部単純ヘルペス、陰部単純ヘルペス、ヘルペス性皮膚炎、ヘルペス眼感性気道感染、鼻炎、鼻ヘルペス、眼鼻咽喉頭炎、副鼻腔部単純ヘルペス、ヘルペスウイルス感染、口腔ヘルペスを含む）、インフルエンザ、毛包炎	口腔カンジダ症	11. 副作用 （略） 11.1 重大な副作用 11.1.1 感染症 （略） 11.1.2 消化管穿孔（0.1%未満） （略） 11.1.3 好中球減少（<u>2.9%</u>）、リンパ球減少（1.7%）、ヘモグロビン減少（0.5%） 好中球数：本剤投与開始後、1000/mm³ 未満になった場合には、1000/mm³ 以上となるまで本剤の投与を中断すること。 リンパ球数：本剤投与開始後、500/mm³ 未満になった場合には、500/mm³ 以上となるまで本剤の投与を中断すること。ヘモグロビン値：本剤投与開始後、8g/dL 未満になった場合には、8g/dL 以上となるまで本剤の投与を中断すること。 11.1.4 肝機能障害 ALT 上昇（<u>2.9%</u>）、AST 上昇（<u>2.3%</u>）等の肝機能障害があらわれるおそれがある。[8.10 参照] 11.1.5 間質性肺炎（頻度不明） （変更なし） 11.1.6 静脈血栓塞栓症 肺塞栓症（<u>0.1%</u>）及び深部静脈血栓症（0.1%）があらわれることがある。[9.1.4 参照] 11.1.7 重篤な過敏症 （略） 11.2 その他の副作用 <table><tr><td></td><td>10%以上</td><td>1%～10%未満</td><td>1%未満</td></tr><tr><td>消化器</td><td>—</td><td>悪心、腹痛（上腹部痛を含む）</td><td>—</td></tr><tr><td>呼吸器</td><td>—</td><td>咳嗽</td><td>—</td></tr><tr><td>感染症</td><td>上気道感染（急性副鼻腔炎、喉頭炎、ウイルス性喉頭炎、上咽頭炎、口腔咽頭炎、咽頭膿瘍、咽頭炎、レンサ球菌性咽頭炎、咽頭扁桃炎、気道感染、ウイルス性気道感染、鼻炎、鼻咽喉頭炎、副鼻腔部単純ヘルペス、ヘルペス性皮膚炎、ヘルペス眼感性気道感染、鼻炎、鼻ヘルペス、眼鼻咽喉頭炎、副鼻腔部単純ヘルペス、ヘルペスウイルス感染、口腔ヘルペスを含む）、インフルエンザ、毛包炎</td><td>気管支炎（ウイルス性気管支炎、細菌性気管支炎を含む）、単純ヘルペス（陰部単純ヘルペス、陰部単純ヘルペス、ヘルペス性皮膚炎、ヘルペス眼感性気道感染、鼻炎、鼻ヘルペス、眼鼻咽喉頭炎、副鼻腔部単純ヘルペス、ヘルペスウイルス感染、口腔ヘルペスを含む）、インフルエンザ、毛包炎</td><td>口腔カンジダ症</td></tr></table>		10%以上	1%～10%未満	1%未満	消化器	—	悪心、腹痛（上腹部痛を含む）	—	呼吸器	—	咳嗽	—	感染症	上気道感染（急性副鼻腔炎、喉頭炎、ウイルス性喉頭炎、上咽頭炎、口腔咽頭炎、咽頭膿瘍、咽頭炎、レンサ球菌性咽頭炎、咽頭扁桃炎、気道感染、ウイルス性気道感染、鼻炎、鼻咽喉頭炎、副鼻腔部単純ヘルペス、ヘルペス性皮膚炎、ヘルペス眼感性気道感染、鼻炎、鼻ヘルペス、眼鼻咽喉頭炎、副鼻腔部単純ヘルペス、ヘルペスウイルス感染、口腔ヘルペスを含む）、インフルエンザ、毛包炎	気管支炎（ウイルス性気管支炎、細菌性気管支炎を含む）、単純ヘルペス（陰部単純ヘルペス、陰部単純ヘルペス、ヘルペス性皮膚炎、ヘルペス眼感性気道感染、鼻炎、鼻ヘルペス、眼鼻咽喉頭炎、副鼻腔部単純ヘルペス、ヘルペスウイルス感染、口腔ヘルペスを含む）、インフルエンザ、毛包炎	口腔カンジダ症
	10%以上	1%～10%未満	1%未満																														
消化器	—	悪心、腹痛（上腹部痛を含む）	—																														
呼吸器	—	咳嗽	—																														
感染症	上気道感染（急性副鼻腔炎、喉頭炎、ウイルス性喉頭炎、上咽頭炎、口腔咽頭炎、咽頭膿瘍、咽頭炎、レンサ球菌性咽頭炎、咽頭扁桃炎、気道感染、ウイルス性気道感染、鼻炎、鼻咽喉頭炎、副鼻腔炎、扁桃炎、細菌性扁桃炎、ウイルス性咽頭炎、ウイルス性上気道感染を含む）	気管支炎（ウイルス性気管支炎、細菌性気管支炎を含む）、単純ヘルペス（陰部単純ヘルペス、陰部単純ヘルペス、ヘルペス性皮膚炎、ヘルペス眼感性気道感染、鼻炎、鼻ヘルペス、眼鼻咽喉頭炎、副鼻腔部単純ヘルペス、ヘルペスウイルス感染、口腔ヘルペスを含む）、インフルエンザ、毛包炎	口腔カンジダ症																														
	10%以上	1%～10%未満	1%未満																														
消化器	—	悪心、腹痛（上腹部痛を含む）	—																														
呼吸器	—	咳嗽	—																														
感染症	上気道感染（急性副鼻腔炎、喉頭炎、ウイルス性喉頭炎、上咽頭炎、口腔咽頭炎、咽頭膿瘍、咽頭炎、レンサ球菌性咽頭炎、咽頭扁桃炎、気道感染、ウイルス性気道感染、鼻炎、鼻咽喉頭炎、副鼻腔部単純ヘルペス、ヘルペス性皮膚炎、ヘルペス眼感性気道感染、鼻炎、鼻ヘルペス、眼鼻咽喉頭炎、副鼻腔部単純ヘルペス、ヘルペスウイルス感染、口腔ヘルペスを含む）、インフルエンザ、毛包炎	気管支炎（ウイルス性気管支炎、細菌性気管支炎を含む）、単純ヘルペス（陰部単純ヘルペス、陰部単純ヘルペス、ヘルペス性皮膚炎、ヘルペス眼感性気道感染、鼻炎、鼻ヘルペス、眼鼻咽喉頭炎、副鼻腔部単純ヘルペス、ヘルペスウイルス感染、口腔ヘルペスを含む）、インフルエンザ、毛包炎	口腔カンジダ症																														

改訂後（下線部_____：追記又は変更）				改訂前（下線部_____：変更、取消線部_____：削除）			
皮膚及び皮下組織	—	ざ瘡（嚢胞性ざ瘡、ざ瘡様皮膚炎を含む）、発疹（紅斑性皮疹、毛孔性皮疹、斑状皮疹、斑状丘疹状皮疹、丘疹性皮疹、そう痒性皮疹、膿疱性皮疹を含む）	蕁麻疹、皮膚有棘細胞癌、基底細胞癌、皮膚乳頭腫	皮膚及び皮下組織	—	ざ瘡（嚢胞性ざ瘡、ざ瘡様皮膚炎を含む）、発疹（紅斑性皮疹、毛孔性皮疹、斑状皮疹、斑状丘疹状皮疹、丘疹性皮疹、そう痒性皮疹、膿疱性皮疹を含む）	蕁麻疹、皮膚有棘細胞癌、基底細胞癌、皮膚乳頭腫
神経系障害	—	頭痛	—	神経系障害	—	頭痛	—
一般・全身障害及び投与部位の状態	—	—	発熱、疲労、末梢性浮腫	一般・全身障害及び投与部位の状態	—	—	発熱、疲労
臨床検査値	—	CK 上昇、高コレステロール血症（血中コレステロール増加を含む）、高脂血症（脂質異常症、低比重リポ蛋白増加を含む）	高トリグリセリド血症、体重増加	臨床検査値	—	CK 上昇、高コレステロール血症（血中コレステロール増加を含む）、高脂血症（脂質異常症、低比重リポ蛋白増加を含む）	高トリグリセリド血症、体重増加
副作用の発現頻度は、関節リウマチ（投与期間 1.36 年（中央値）の安全性データ）、乾癬性関節炎（投与期間 1.32 年（中央値）の安全性データ）、X 線基準を満たさない体軸性脊椎関節炎（投与期間 0.87 年（中央値）の安全性データ）、強直性脊椎炎（投与期間 0.82 年（中央値）の安全性データ）、巨細胞性動脈炎（投与期間 1.00 年（中央値）の安全性データ）、アトピー性皮膚炎（投与期間 2.57 年（中央値）の安全性データ）、潰瘍性大腸炎（投与期間 1.66 年（中央値）の安全性データ）及びクローン病（投与期間 0.939 年（中央値）の安全性データ）を対象とし、本剤との関連性が否定できない事象につき、当該臨床試験の統合データに基づいて算出した。				副作用の発現頻度は、関節リウマチ（投与期間 1.36 年（中央値）の安全性データ）、乾癬性関節炎（投与期間 1.32 年（中央値）の安全性データ）、X 線基準を満たさない体軸性脊椎関節炎（投与期間 0.87 年（中央値）の安全性データ）、強直性脊椎炎（投与期間 0.82 年（中央値）の安全性データ）、アトピー性皮膚炎（投与期間 2.57 年（中央値）の安全性データ）、潰瘍性大腸炎（投与期間 1.66 年（中央値）の安全性データ）及びクローン病（投与期間 0.939 年（中央値）の安全性データ）を対象とし、本剤との関連性が否定できない事象につき、当該臨床試験の統合データに基づいて算出した。			
15. その他の注意 15.1 臨床使用に基づく情報 15.1.1～15.1.8（変更なし） <u>〈巨細胞性動脈炎〉</u> 15.1.9 巨細胞性動脈炎患者を対象とした第Ⅲ相試験における本剤 15mg の解析（長期）において重篤な感染症の発現は 2.9 件/100 人・年であった。[1.1、1.2.1、2.2、11.1.1 参照] 15.1.10 巨細胞性動脈炎患者を対象とした第Ⅲ相試験における本剤 15mg の解析（長期）では、非黒色腫皮膚癌を除く悪性腫瘍の発現率は 1.2 例/100 人・年であった。[1.1、8.7、8.8 参照] 15.1.11～15.1.17（変更なし 以下番号繰り下げ） 15.2 非臨床試験に基づく情報（変更なし）				15. その他の注意 15.1 臨床使用に基づく情報 15.1.1～15.1.8（略） 15.1.9～15.1.15（略） 15.2 非臨床試験に基づく情報（略）			

【改訂理由】巨細胞性動脈炎の効能追加（承認事項の一部変更承認）に伴う改訂

1)「警告」の項

1.6 本剤での現行の治療情勢を考慮し、巨細胞性動脈炎に対する既承認薬の記載を参考にして設定しました。

2)「効能又は効果」、「用法及び用量」の項

新たに承認された事項を記載しました。

3)「効能又は効果に関連する注意」の項

5.5 本薬と同様の位置付けである既存の生物製剤での注意喚起を参考に、巨細胞性動脈炎患者を対象とした第Ⅲ相試験の対象患者等を踏まえ、設定しました。

4)「重要な基本的注意」の項

8.11 臨床試験は副腎皮質ステロイド漸減投与下で実施しており、本剤と高用量の副腎皮質ステロイド薬を長期に併用投与した場合の安全性は確認されていません。そのため、本剤投与開始後は、患者の状態を十分に観察しながら、状態に応じて副腎皮質ステロイド薬の減量を考慮していただくことが適切と考え、設定しました。

5)「特定の背景を有する患者に関する注意」の項

9.1.5 本剤での治療と動脈血栓塞栓症の因果関係を疑うような十分な科学的根拠はいまのところ不足していますが、巨細胞性動脈炎の第Ⅲ相臨床試験（M16-852）において本剤15mg群で2例の動脈血栓塞栓が認められたことを考慮し、設定しました。なお、当該2例のうち1例については本剤との因果関係が治験担当医師により否定されております。

9.7 小児を対象とした臨床試験結果は得られていないため、設定しました。

6)「副作用」の項

副作用の発現頻度は、関節リウマチを対象とした第Ⅲ相試験（M14-663, M15-555, M13-545, M14-465, M13-542, M13-549の6試験）、乾癬性関節炎を対象とした第Ⅲ相試験（M15-572, M15-554の2試験）、X線基準を満たさない体軸性脊椎関節炎を対象とした第Ⅲ相試験（M19-944 study2の1試験）、強直性脊椎炎を対象とした第Ⅱ/Ⅲ相試験（M16-098の1試験）及び第Ⅲ相試験（M19-944 study1の1試験）、巨細胞性動脈炎を対象とした第Ⅲ相試験（M16-852 第1ピリオドの1試験）、アトピー性皮膚炎を対象とした第Ⅲ相試験（M17-377, M16-045, M16-047の3試験）、潰瘍性大腸炎を対象とした第Ⅱb/Ⅲ相試験（M14-234 sub study1, sub study2及びsub study3の3試験）、並びに第Ⅲ相試験（M14-675, M14-533の2試験）及びクローン病を対象とした第Ⅲ相試験（M14-431, M14-433, M14-430 sub study1及びsub study2の4試験）の統合解析に基づき、副作用とその頻度を更新しました。なお、動脈血栓塞栓症の発現頻度は心血管判定委員会により動脈血栓塞栓症として特定された事象を集計しました。また、これらの統合解析において報告されていない事象は頻度不明としております。

7)「その他の注意」の項

15.1.9-15.1.10 関節リウマチ、乾癬性関節炎、X線基準を満たさない体軸性脊椎関節炎、強直性脊椎炎、アトピー性皮膚炎、潰瘍性大腸炎及びクローン病と同様、本剤の重篤な感染症及び非黒色腫皮膚癌を除く悪性腫瘍の発現状況を記載しました。

最新の電子化された添付文書は PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」(<https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html>) 及び弊社医療関係者向けウェブサイト「A-CONNECT」(<https://a-connect.abbvie.co.jp/>) に掲載しております。また、添付文書閲覧アプリ「添文ナビ」を利用し、GS1 バーコードを読み取ることでご覧いただくこともできます。あわせてご利用ください。

リンヴォック錠の GS1 バーコード



(01)14987857150702

アッヴィ合同会社
東京都港区芝浦3-1-21